

各グループのあゆみ

ここからは、
各グループ議論・検討経過のまとめとなります！



学校グループ 生徒らしさ班

1. このテーマに興味を持ったきっかけ

普段の生活の中で「中学生・高校生らしくないさい」「〇〇中学(高校)の生徒らしくしなさい」などと言われることがあり、自分の中で思う「らしさ」と大人が考える「らしさ」で違いがあるのでは？と興味を持ち、テーマに設定しました。

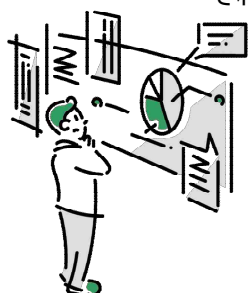


2. グループの意見(ワークショップでのディスカッション結果)

「学生らしさ」とは子供の立場で考えるものと大人が考えるものの二種類があると考えました。子供が考える学生らしさとは、「部活動に励んだり、制服を着たり、学割を利用したりなどの学生にしかできないことをすること」であり、大人が考える学生らしさとは、「責任能力のない子供が、自分で責任を取れる範囲で行動することや、学生としての自覚を持つこと」であると考えています。



「らしさ」って個性？
それとも誰かが望む姿？



3. 取材（内容を一部紹介いたします）

工学院大学 教育推進機構教職課程科准教授

安部 芳絵 先生にお話を伺いました！

- (1) 先生が考える「生徒らしさ」とはどういったものでしょうか。また、校則を作るにあたって子どもが考える「生徒らしさ」や「中高生らしさ」への配慮は必要なのでしょうか。



- 今問題になっている校則の中に「地毛証明」がある。このグローバル化の時代に、髪の毛の色は様々なのに、学校の考える生徒らしさは黒髪と押し付けるのは違和感がある。
- 「らしさ」を考えるときに、その人たち以外が「らしさ」を押し付けるのはおかしいと思う。一人一人の考えをだして、そこから合意を形成するべきである。生徒自身が生徒らしさを考える場が必要だと思う。

安部先生の回答

- (2) その他コメント



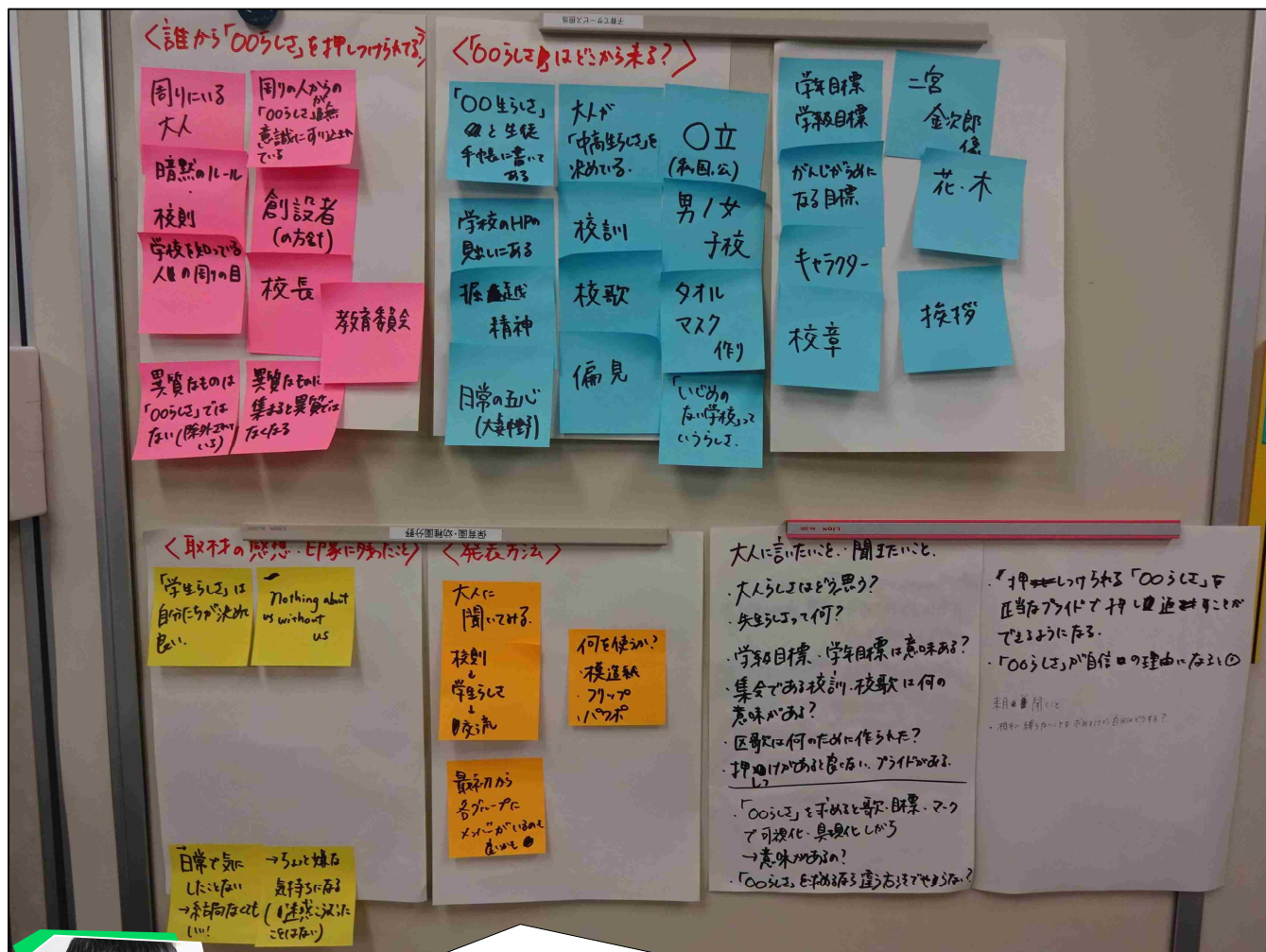
- 「らしさ」というものは自分の中にあるものだから、押し付けられるものではなく、自分自身で考えていい。大人になると、自分らしさと社会が衝突することがあると思うが、中高生は自分らしさを探している途中なのだからたくさん悩んでいい。
- 今回皆さんがした問いは答えがあるものではないがとても大切。大学の学びに近い。なかなか答えが見つからないと思うが、問いを大事にして続けてほしい。

安部先生のコメント



当初、学校グループの校則班と、生徒らしさ班は、一つのグループで活動していましたが、話し合いを進めていく中で、2つの班に分かれることとなりました。

4. 取材を踏まえてのまとめ

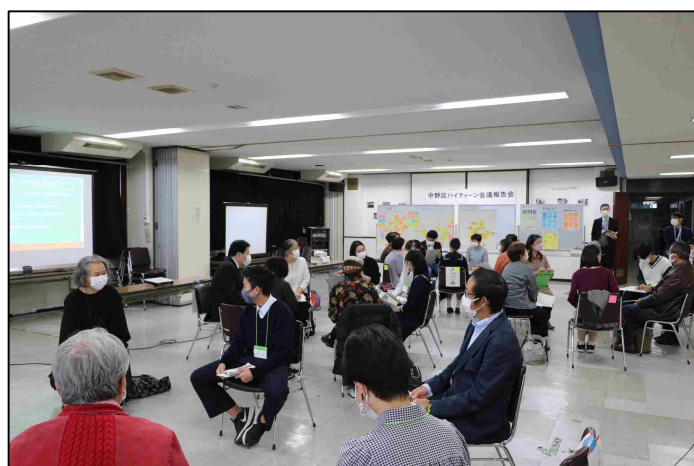
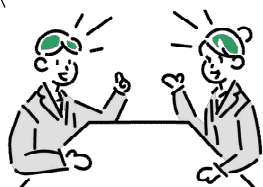


僕たちはこう考えたけど
周りの大人は
どう考えているのだろうか？

そこで、報告会での発表方法を工夫しました！



学校グループ生徒らしさ班では、
自分達の主張を述べるだけでなく、
周りの声にも耳を傾げるために、
会場にてグループワークを
行いました。



グループワークで出た意見を一部紹介します！

「らしさ」は悪い言い方をすると「強制」でもあり、目指すべき人間像のことと捉えられがち。だから中高生は「らしさ」にモヤモヤするのではないかな？

中高生が一番「らしさ」について言われるのではないかな？自分の子には言わないようにしています。
子ども側には「言わないで」と言ってほしいです。

そもそも「らしさ」は思う人の主観。
「こうあってほしい」＝「らしさ」になる。
「らしさ」は他者が考えている理想の形ではないのかなあ？

「らしさ」は、限られた地域の中による噂や、テレビからのイメージなどによっても作られていくのではないかな？



私自身、元から考えを持っていたものの、議論を深めていくうちに色々な意見が出てきて私の考えも変わって行って、それがとても面白く感じました。



メンバーからの
感想コメントを紹介！

学校グループ校則班

1. このテーマに興味を持ったきっかけ

中高生にとって多くの時間を過ごす場所である「学校」において、理不尽だと思う校則があると感じるところがあり、「校則が存在する理由」と「校則がどのように作られるのか」に興味を持ち、改善できることはないか、生徒が校則を変えることはできるのか、と考えました。



2. グループの意見(話し合いの結果)

話し合いを進めていく中で、実際に生徒が校則を変えた事例がいくつかあり、生徒の発案で校則を変えられることを知りました。しかし、校則を変える手順や手段は明確には調べきれなかったため、「校則について、生徒会が全校生徒へのアンケートを行って意見を聞き、それを校則を変える意思のある教員に話をするのが有効である」という仮説を立てました。また、学校内でも教員によって校則の解釈が異なる場合や、学年や部活動など特定の条件や環境によって校則が変化することがあるという問題があることも気が付きました。



3. 取材（内容を一部紹介いたします）

工学院大学 教育推進機構教職課程科准教授

安部 芳絵 先生にお話を伺いました！

- (1) 生徒が校則を変えられることはできるのでしょうか。また、特定の生徒(例えば生徒会役員)でないと校則は変えられないのでしょうか。



生徒・保護者・教員での三者協議を行う。
協力してくれる先生と共に他の先生に訴える。
生徒会役員が学校側に提案する。
全校生徒にアンケートを取り既存の校則の理不尽さを訴える。
校則を作ることができる校則を新しく作成する。 など

メンバーの予想



- 校則は生徒がしあわせな学校生活を送るためのもの。しかし、「合理的な範囲を逸脱している」ものもある。
- 今、全国で校則を変えようという動きが出てきている。文部科学省のHPでは校則見直しの良い事例を紹介し、校則の見直しを生徒の主体性を培う機会と捉えている。
- 生徒が変える方法は、生徒会や校則に不満がある人が集まって校則検討チームを作るなどいろんな方法がある。
- 先生から「校則をなくそう！」と動いているところもある。

安部先生の回答

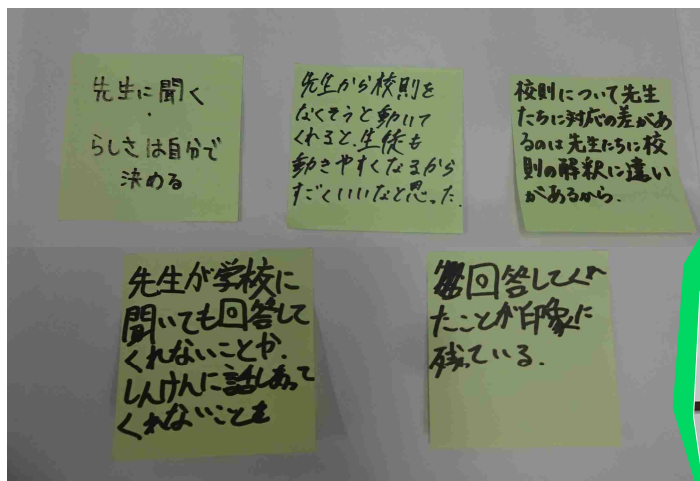
- (2) 校則は全校生徒に対して定められた規律であるのに、指導を担当する教員や生徒が所属する部活動などによって対応に差があるように思います。教員によって校則の解釈の仕方が異なるのにはどのような原因があるとお考えでしょうか。



- 本来、指導する教員によってルールの解釈が異なることはおかしい。
- 部活の先生によって、注意された程度で済む部活と活動停止になる部活などの違いがあるのは、先生たちの間でも校則の重要性や解釈の違いがあるから起こるのではないか。
- 教職課程(先生になりたい人がうける授業)で校則について学ぶ場は大学によってはほとんどないところもある。学校はルールで子どもを縛る場ではないが、ルールで縛ったほうが指導しやすいと勘違いしている先生がいて、そういう先生が校則を厳しくしているかもしれない。

安部先生の回答

4. 取材を踏まえてのまとめ



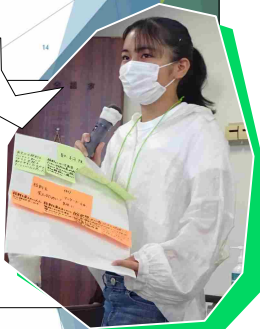
はじめに、取材を行った感想を、グループ内で共有し、そこからまとめ作業に移っていききました。



校則を作るなら

- ▶ 個性の尊重
- ▶ 「自由」と「最低ライン」

校則を作るうえでは、個人を尊重しながら、「自由」と「最低ライン」を決めることが大切と考えました。



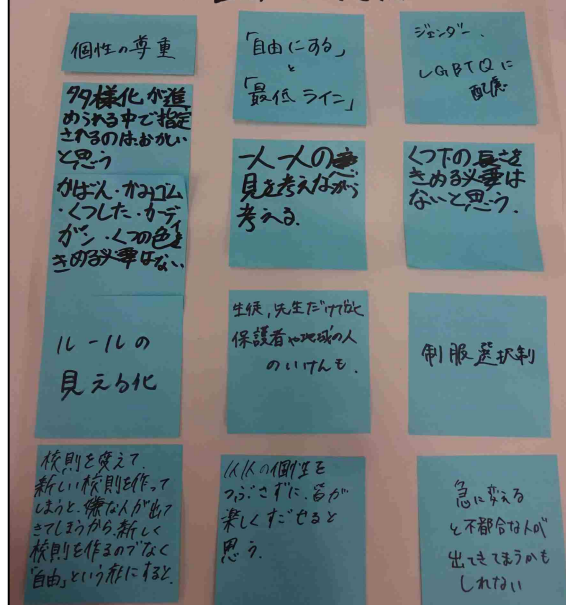
最低限残すべきもの

- ▶ 校風
- ▶ 常識
- ▶ 安全
- ▶ 勉強

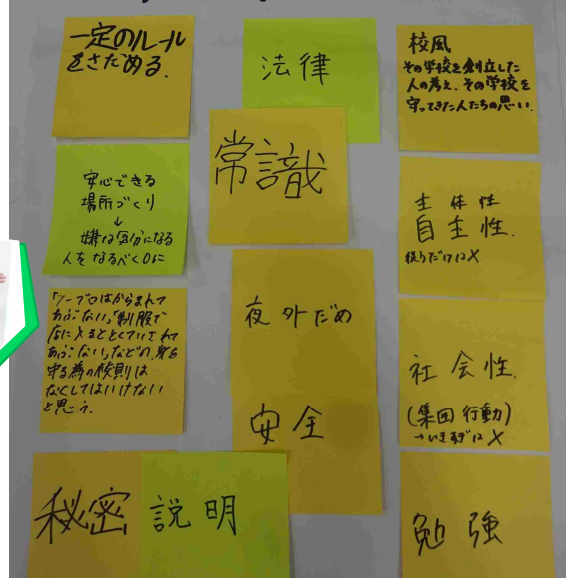
校則は生徒を守る役割があることを理解した上で、校則を作る・変えていく際に最低限必要なルールや学校に求められることをまとめました！

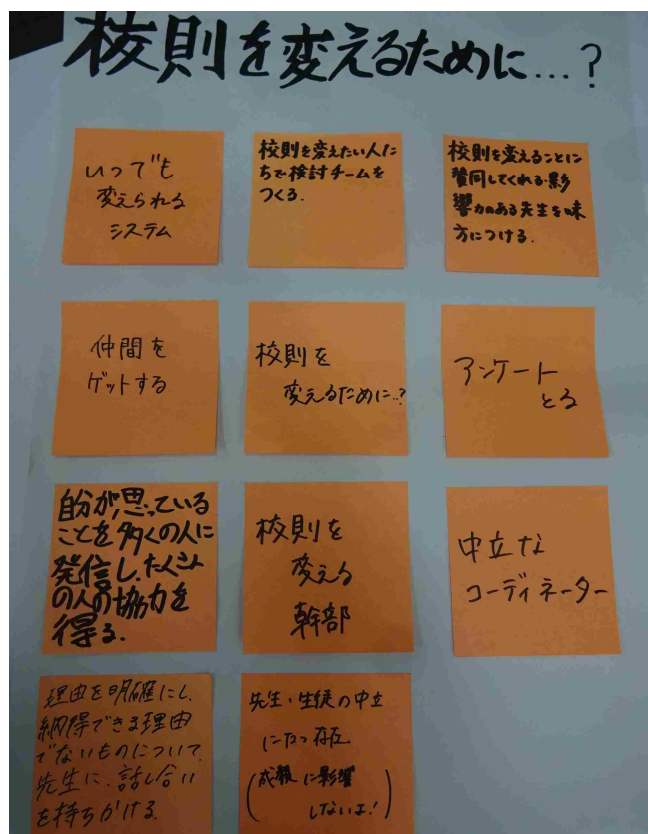


校則を作るにあたって… — 配慮すべき点 —



最低限残すべきこと 学校に求められること





校則を変えるためには、
同じ意志を持つ人同士で
チームを作ったり、
先生と生徒を繋いでくれるような
存在がいて、生徒も動きやすいと
感じました。

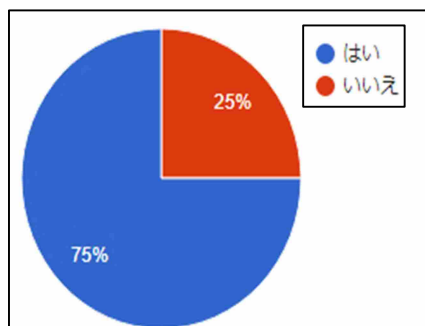


校則を変えるために

- ▶ 変えたい人たちで検討チームをつくる
- ▶ 先生と生徒の中立になる存在が必要

★報告会では、来場者に向けてアンケートを行いました！（回答数：28）

Q.校則は必要だと思いますか？



Q.服装や髪型を縛る校則についてどう考えますか？

- 生徒の常識によると思います。
- 髪型や服装にあまりに熱中するようだと、学校の目的と異なってしまふ。学習の妨げにならない程度がよい。
- あまり意味のないことだと思いますが、日本人って見た目ですぐ人を判断する人もまだまだ多いので。



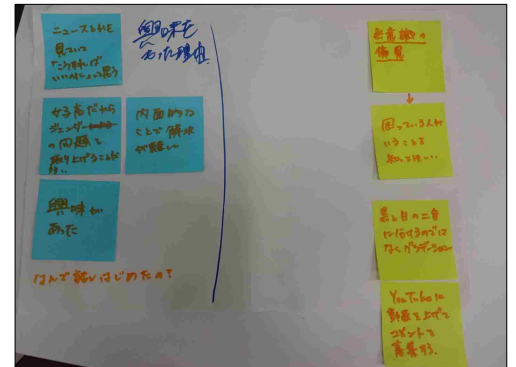
学校グループ校則班は、
学校で生徒会に所属しているメンバーが多く
話し合いを進める中で、
「自分たちの学校をもっと良くしたい！」
という、熱い思いがとても伝わってきました！



ジェンダーグループ

1. このテーマに興味を持ったきっかけ

- ・ニュースなどでジェンダーの問題が取り上げられているときに「こうすればいいのに」と思うことがあったから
- ・内面的な問題で、解決することが難しいから
- ・女子校に通っているので、ジェンダーの問題を授業などで取り上げることが多いから



2. グループの意見(話し合いの結果)

話し合いの中で、ジェンダーに対する様々な課題を挙げ、なぜそのような課題がある状況になるのか”理由”を考えてみました！

(1) 古い価値観に従っている理由

- 日本の縦社会の影響でなかなか法改正が進まないから。
- 今までそれで上手くいっている(と感じている)から。
- 上に立つ人々がおじさん、おばさんばかりだから。
- マジョリティ(多数派)の常識だったものを覆されたくないから。

(2) 今まで社会がジェンダーマイノリティの人々の生きづらさに気づけなかった理由

- 「恥の文化」の影響で少数派が声を上げづらいから。
- 女性より男性は筋肉量が多いなどと、多数派がすべてだと思っているから。
- 人は集団について行きやすい生物だから。

(3) 「女性は育児、男性は仕事」等の役割の固定化が起きている理由

- 生物学的な差を超えることが出来ないから。(力が強いなど)
- 戦争時に「男性は戦いに行く、女性は家のことをする」というものが定着したから。

(4) ジェンダーマイノリティの人々が過ごしやすい世の中にするためには

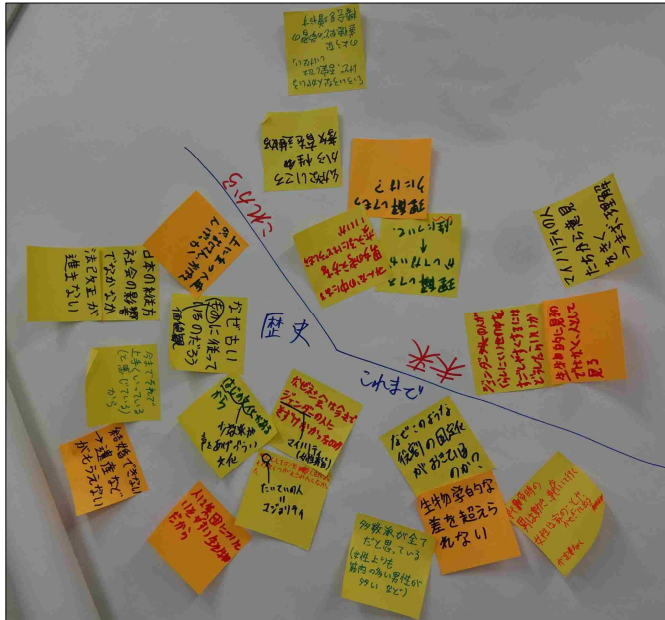
→生物学的に見るのではなく、人として見るのが大切

マイノリティの人たちから意見を聞き、理解することから始める

(5) 性について理解してもらう方法・みんなの中にある男女の考えを変える方法

→幼い頃から性教育を進める。

「様々な人がいるけど、否定はしてはいけない」というような道德などの学習の機会を増やす。



学校や普段友達同士では
なかなか話さない話題について
意見を出し合うことが出来ました！



3. 取材（内容を一部紹介いたします）

工学院大学 教育推進機構教職課程科准教授

安部 芳絵 先生にお話を伺いました！

(1) なぜ「男には男の役割、女には女の役割」などといった古い価値観に従っているのでしょうか。また、このような役割の固定化が起きている理由は何なのか、固定化された考えを変えるためにはどうしたらよいのでしょうか。

- ジェンダーとは、社会的・文化的につくられる性であり、もともとあったものではない。
- 世界的に見ると共通というわけではなく、この固定化はその国の文化や社会の中で作られてきた。
- ひとりひとりがジェンダーを自分の問題と捉えることが、例えば現在女性が少ない政治の分野や理系の分野で女の子が増えていくきっかけになると思う。



安部先生の回答

(2) ジェンダーマイノリティの方が暮らしやすい世の中を実現するには、どうしたらよいのでしょうか。先生のご意見をお聞かせください。

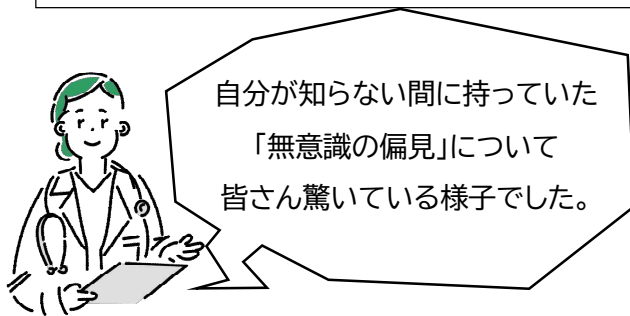
- マイノリティの方が暮らしやすい世の中にするために、マイノリティだけが頑張らなければならないわけではない。
- Nothing about us without us. (私たちのことを私たち抜きで決めないで)という言葉がある。つまり、マイノリティの人々が暮らしやすい世の中を作るにはマジョリティ(多数派)が「きっとこれがいいだろう」と作っても、マイノリティの人からすると良くないかもしれない。まずはマイノリティが声を上げやすいような環境をマジョリティが作っていくことが大切。



安部先生の回答

4. 取材を踏まえてのまとめ

- ・私たちは知らない間に、「無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)」を持っていた
- ・みんなが過ごしやすい社会を作るには、自分の中の「無意識の偏見」に気づくことが大切



自分が知らない間に持っていた
「無意識の偏見」について
皆さん驚いている様子でした。

報告会では発表冒頭に、
先入観などで気づきづらいこと(=無意識の偏見)を
意識させるようなクイズを出題し、
参加者の皆さんの中にも「無意識の偏見」があることを
上手く伝えることができました。

ここから分かること

- ・私たちは「外科医」と聞くと、若い男性をイメージすることが多い。
しかし、女性、年配の方である可能性も考えられる。
→知らず知らずのうちに身についた
「無意識の偏見」(アンコンシャス・バイアス)

↓
みんなが過ごしやすい社会をつくるには、
自分の中の無意識の偏見に気付くことが大切なのは？



無意識の偏見

取材で学んだ“Nothing about us without us”
(私たちのことを私たち抜きで決めないで)というとの関連
「本人達がどう思っているのか私たちにはわからない…」
→当事者の声を聴く必要がある！！！！
しかし、すべてのマイノリティの方々が生かされるのだろうか。

↓
「信頼感」が重要

マイノリティの方が声をあげたり、
自分の思いを発信できるようになるには
“信頼感”が必要だと考えました。



自分たちの身近な問題を取り上げ、
マイノリティが意見を表明する場合を考えました。
自分が当事者だったら...と置き換えることで、
相手の立場にたって考えることが出来ました。



信頼感

自分たちの身近な問題で、
マイノリティが意見を表明する場合を考えてみる。

・いじめのアンケート

否定的な意見

「アンケートによっていじめが悪化するから書けない」
「相談しても何も変わらない」

肯定的な意見

「自分で選んだ学校だから**信頼感**があるから書ける」

マジョリティ、マイノリティそれぞれの立場から、
”信頼感”のある関係を構築するために
大切にすべき事項をまとめました。



「信頼感」のある関係を構築するには

マジョリティの人々が出来ること

- ・あらゆる人々が「無意識の偏見」を持っていることを自覚する
- ・「無意識の偏見」を持っている時点で他人事ではなく、
自分事としてとらえること

マイノリティの人々が出来ること

- ・同じようなマイノリティの人々が集まれる場をつくる
- ・社会に発信する運動をする

今まであまり意識しなかった部分や、
深く考えなかったことを
今回、ちゃんと話し合うことで
深掘りできたことがとても自分にとって
良い経験となりました！



AI グループ

1. このテーマに興味を持ったきっかけ

近年、急速な AI 技術の発達により、日常生活で AI の利用や活躍を目にする機会が増えたことから、人間である自分たちが AI と共生していくために知っておくべきことは何か、という疑問を持ち、「AI と人間が共生していく上でどのような決まりがあるのか、またはあったほうがいいのか」について議論することにしました。

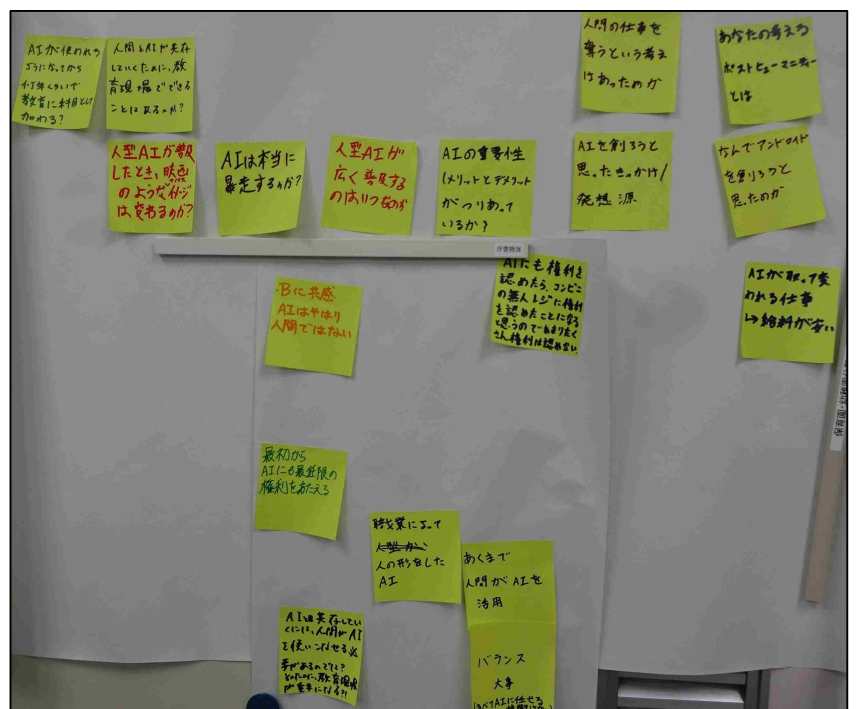
2. グループの意見(話し合いの結果)

○あくまで人間がコントロールできる範囲の中で AI を活用すべき

⇒人型アンドロイドが普及してきたら、人間がコントロール出来る範囲の機能を人型アンドロイドにつける必要がある

○AI にどこまで任せるか(権利を与えるか)あらかじめ決めておくべき

○使う場面や場所によって AI の形(人型など)を変化させるべき



3. 取材（内容を一部紹介いたします）

東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授

板津 木綿子 先生にお話を伺いました！

- (1) AI を活用するメリットとデメリットはどこにあると考えますか。デメリットに着目したうえで AI の普及は重要ですか？

●メリット

AI は単純作業が得意なので、人間だとミスが起こるものや難しいことは AI に任せて良いと思う。また、人のサポートとして、パワースーツや見守りカメラ等の活用方法がある。

●デメリット

例えば、見守りは同時に監視も出来てしまうなど、誤った使い方や学習によって不利益が出てしまうことがある。

●デメリットはあるが、メリットの方が大きいと考えるため、私たちのニーズに合わせて AI の使い方を変化させていくべき。

板津先生の回答

- (2) 人型 AI が普及したとき、映画のように AI は、暴走したり、人間の仕事を奪ったりすることはあるのでしょうか？また、仕事が奪われるとしたらどのような仕事なのでしょうか？

●国によって AI に対する印象が異なり、アメリカやヨーロッパでは怖いもの。日本では親近感があるものとして映画等で登場することが多い。

●人間の仕事を奪うことは、あると考えていて、既に奪われはじめている（例えば宅急便の再配達やレストランの予約など）。一方、奪われない仕事は、芸術や音楽などの想像力を働かせる仕事と考えている。

●AI の普及によって新たな仕事が生まれている（AI を教育する仕事など）。

板津先生の回答

- (3) 私たちは人間と AI が共存していくにおいて、AI に関する知識を与えるような場が学校の中に必要とも考えますが、板津先生はどうお考えになりますか？また AI に関する科目が授業に加わるとしたら、それまでにどれくらいの年月がかかると思いますか？

●データサイエンスについては、科目に加えるような話が出ているので間近かもしれない。今後は様々な教科で AI に触れることになると思う。

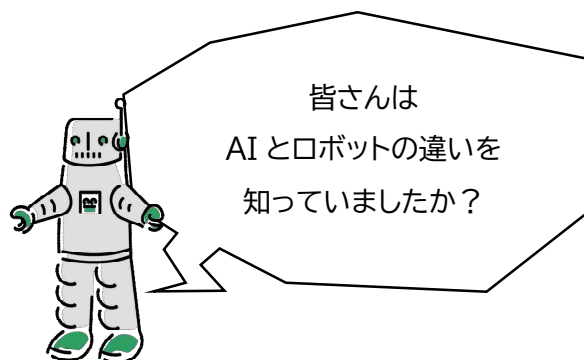
●単語を学習する際などはアプリなどでいいと思うが、外国語を学ぶということは文法や文化、哲学などを考えながら学習する必要があるので、どれだけ AI が発達しても外国語教育はなくならないと思う。

●学校場で AI について考える場面はたくさん出てくるのではないかな。

板津先生の回答

4. 取材を踏まえてのまとめ

報告会では、発表冒頭に「そもそも AI とはなにか？」と
AI とロボットと比較をすることでわかりやすく説明をしました！



	AI	ロボット
すること	人間が扱うことのできないほどの膨大な情報を扱える(学習する) ⇒ <u>事柄の関連性を見つける、予測を立てるなどのことが可能</u>	あらかじめプログラムされた動作のみを行う ⇒人間がプログラムしたことのみ出来る
身体	プログラムであるため、 <u>身体は不要</u>	実作業を行うための、 <u>身体が必要</u>



このテーマについて考えたときに、
AI に仕事を奪われることに対して
不安に感じました。



海外と日本で、
AI に対する感じ方に違いがあることが、
映画などの作品から
読み取ることが出来ます。



取材を通じて、
これから AI と関わるが増えていくことから、
学校などでも AI について学ぶ機会が
必要なのでは無いかと考えました。



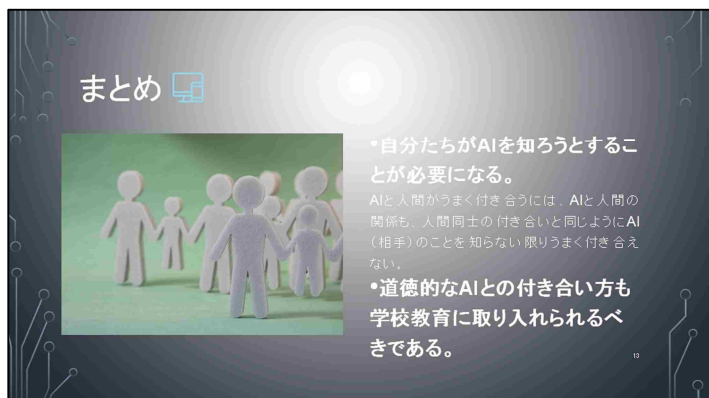
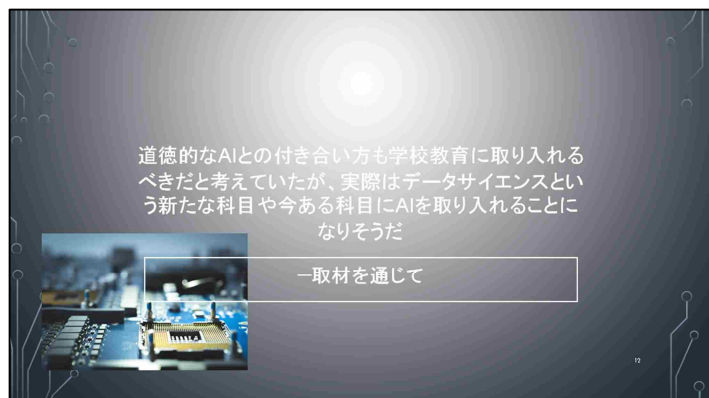
ショッピングサイトで、購入履歴から
おすすめ商品が予想されるのも
AI が活用されています！



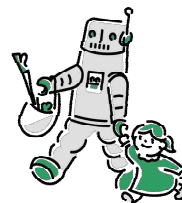
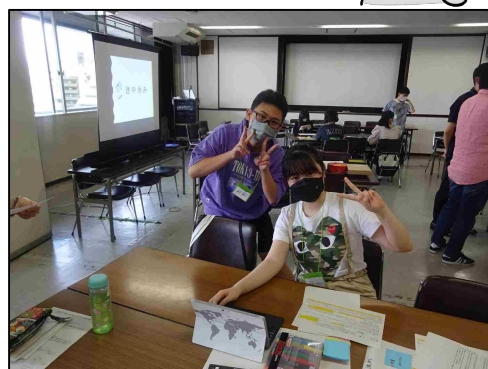
取材を通じて、新たに AI についての科目を新
設するのではなく、データサイエンス(※)という
科目や、今ある科目に AI を取り入れることにな
るということがわかりました。



(※)データを用いて新たな科学的
的及び社会に有益な知見を引き
出そうとするアプローチのこと



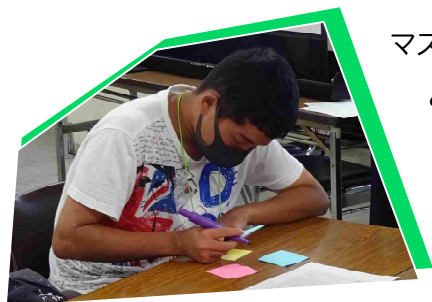
AI と今後関わりが増えていく中で、
人間同士の付き合いと同じように、AI(相手)の
ことを深く知る必要があるため、
道徳的な AI との付き合い方も学校教育に取り
入れられるべきと考えました。



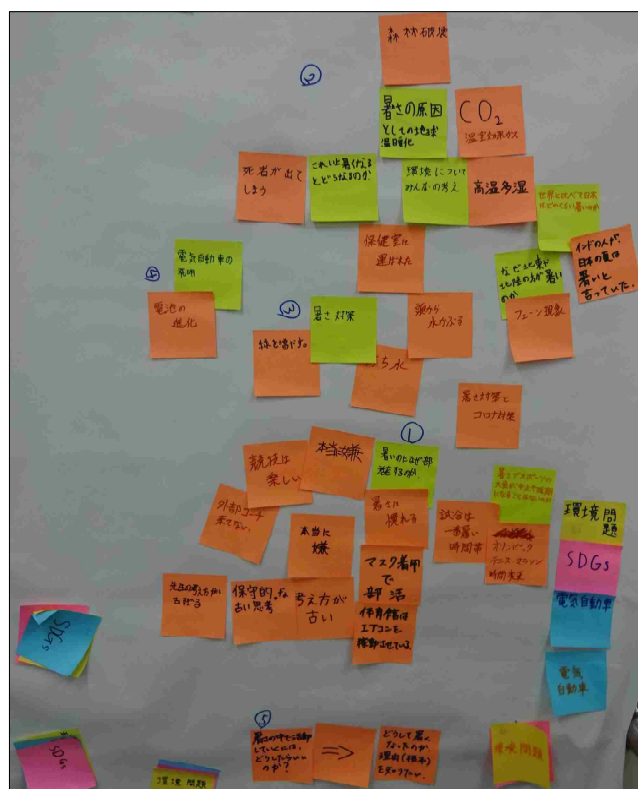
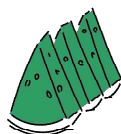
環境問題グループ

1. このテーマに興味を持ったきっかけ

猛暑の中での部活動を経験したこと、年々暑さが厳しくなっているように感じたことから、地球温暖化が進んでいる原因やその対策に興味を持ったのでテーマに設定しました。



暑い上に
マスクを着用していると
とても大変です！



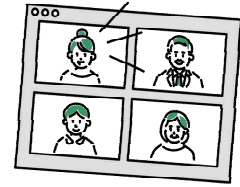
2. グループの意見(話し合いの結果)

グループ内で話し合いを進めていく内に、自治体では様々な事業や対策を行っているが、温暖化が改善されないため、一層の取り組みが必要なことや、メリットがないと温暖化防止の取り組みが続けにくく、区民などへの普及が難しいことに気づきました。



3. 取材（内容を一部紹介いたします）

中野区環境部環境課に取材を行いました！



- (1) 区民に向けた環境に配慮した取組みについて、区民に参加を促し興味を引くように工夫されていることや、どのような普及啓発を行っていますでしょうか？特に中高生向け、学校との連携などを行っていただければ教えてください。

●中野エコポイント制度

区が実施する環境イベントへの参加やフードドライブ(食べきれない食料品などの寄付)などで商品券などと引き換え可能なポイントをもらう事ができる。

●中野エコチャレンジ

小中学生向けとして、日常生活の中での環境に対する取組みにチャレンジしてもらう取組み。

●地球温暖化防止出前講座

区民と区職員とのコミュニケーションによって地球温暖化への関心を高め
もらう事業。
など



環境課の回答

- (2) 環境問題への取組みによって区民、または区にはどのようなメリットがあるとお考えですか？

●メリットが見えないのが難しいところ。

●「今住んでいる町に住み続けられる」が一番のメリット。ヒートアイランドがこのまま進んで東京に住めなくなってしまうと、日本という国のあり方も変わってきてしまいます。



環境課の回答

- (3) 私たち中高生が普段の生活のなかでできる環境に配慮した行動はありますか？

●地球の将来に関わる話なので年齢は関係ない。省エネについてはどう効果があるのかが分かりにくいと思うが、食べるものや着る物を無駄にしないようにする。

●また、環境に配慮した商品の印である、エコマーク等がついた商品になるべく使用する。

●中高生が関心を持って行動することで、家族など一緒に行動してくれる人も現れるはず。



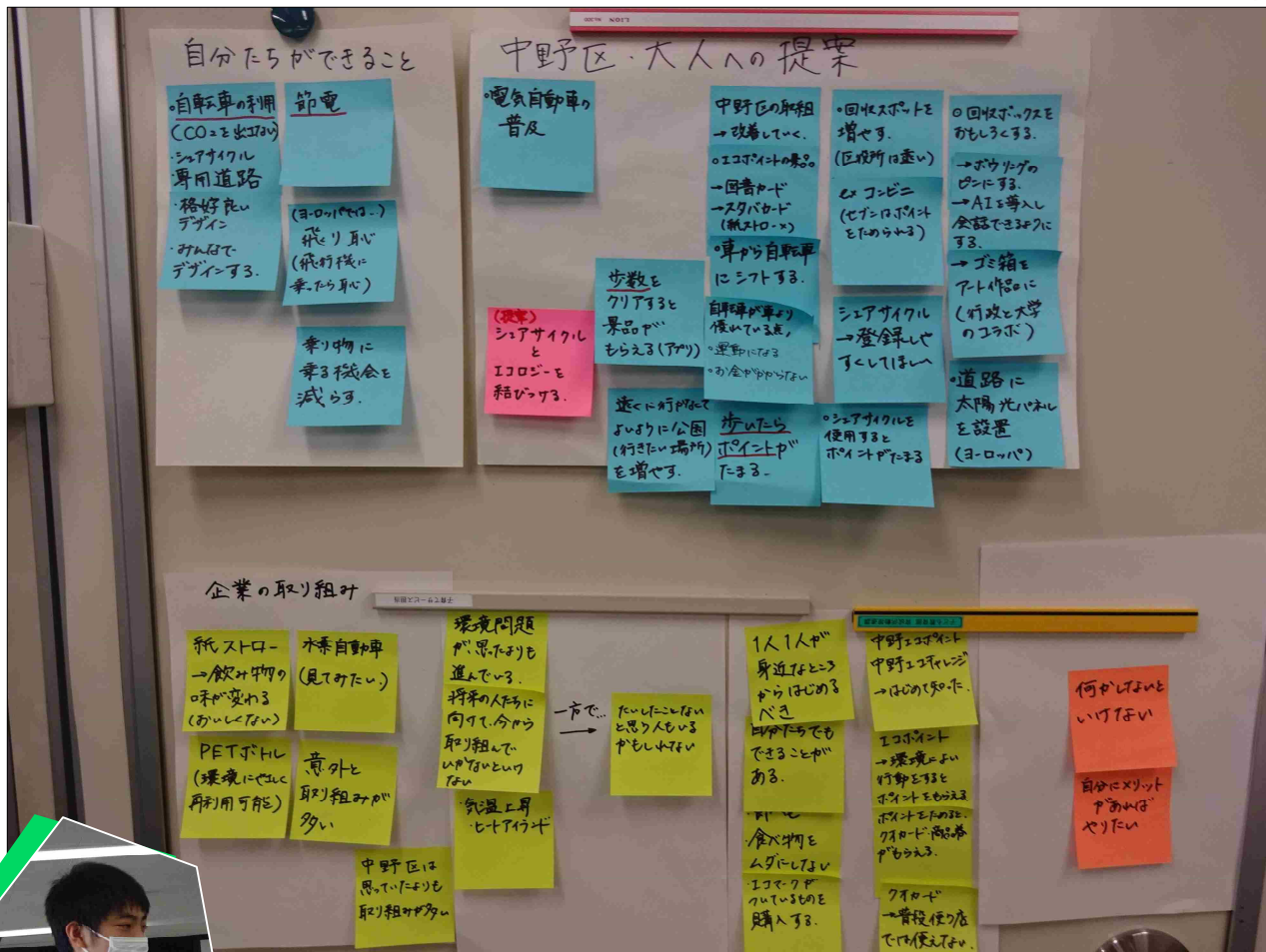
環境課の回答

4. 取材を踏まえてのまとめ

取材を通じて思ったこと・感想

- ・ 中野区は行っている施策が多く、初めて知った事業が多かった。
- ・ 自分たちでもできることがあるため、ひとりひとりが身近なことから取り組んでいきたい。

中野区の事業などは
初めて知るものが多かったので
特に学校などで出来る取り組みを
考えてみました。



▲取材後に出たグループの意見

個人で出来ることや
企業での取り組みを整理した上で
区への提案や、自分達で出来る
工夫を考えました。

報告会の様子



提案

◎中高生でも参加しやすいエコポイント制度



中高生が(学校で)取り組めること

「リサイクルのための資源回収」
例: コンタクトケース
ペットボトルキャップなど
「無理のない範囲で節電」
「エコマークの商品の購入推進」
「給食や学食を残さない」など

19

中野区の今ある取り組みである
「なかのエコポイント制度」を
中高生も参加しやすい形にするために
スライドのとおり提案しました！



提案

- 学校単位で事業(エコポイント)に参加する。
⇒中高生の間での認知度が上がる。
参加のハードルが下がる。
学校ごとの特色を活かして取り組める。
中高生がもっとも長く過ごす場所だから効果も大きいはず。
- 交換できる商品は中高生にとって魅力のある物にする。
⇒参加する意欲を向上させる。
日常使いができる物だと普段から目に入って達成感もある。
例) 文房具、区の施設の優先利用、飲み物、図書カード 等々



あわせて、
学校の中で出来る取り組みとして
資源の回収ボックスを工夫することを
提案しました！



提案

○資源の回収ボックスについて

- 回収しやすいよう数を増やす(各クラスに配置！)
- 人気のアニメや漫画、インフルエンサーと
コラボをして認知度を高める
- 目にとまりやすいようにデザイン性を高める
(デザインコンテストを開催して周知を図る)



実際にこの提案は
メンバーが所属する学校で実施されました！！
⇒43ページへ進む

意識が変われば行動が変わる！
行動が変われば習慣が変わる！
習慣が変われば未来が変わる！

...とは言っても人は簡単に動きません。
参加する方にもメリットが必要。
win-win な環境対策があると良いと考えます！

